midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

September 2011 No.313-314

９月号の１枚：被災地（大船渡市）に森の積み木を寄付

［巻頭言］　森林の機能・・・空気（酸素）

1分以上も息を止められる人は少ない

森林を語る時、「森林の機能」は欠かせない課題である。森林に関わる様々な資料には必ず、これが書かれている。林野庁のホームページで森林の機能に関する項目は、次の八つである。[1]生物の多様性保全：遺伝子、生物種、生態系、[2]地球環境保全：温暖化緩和（CO_2吸収他）、[3]土砂災害・土壌保全（浸食・崩壊）、[4]水源涵養（貯留・調節・緩和）、[5]環境形成（気候・大気浄化）、[6]保健・レクレーション、[7]文化機能、[8]物質機能（木材・食糧・肥料・薬品・緑化）

森林が光合成によって、炭素（C）を木の形で固定化し、酸素（O_2）を放出することによって人は生きている。ここで疑問。林野庁の公表する森の機能の中に光合成による酸素の放出がない。欠かせないと機能と思うが、どうだろう。これに関する議論もなされているようだが未だ、納得出来る回答が得られない。

1分以上も息を止められる人は少ない。３分も酸素が体内に取り入れられねば、脳に酸素が届かなくなり脳死状態になり最早、人間を始め動物は生きていられない。林野庁の担当部署にも疑問を問い合わせたが、「空気は、空気のような存在で、機能・価値と言う尺度に当てはまらいから対象外だ」と言う回答であった。「森林の機能」に酸素放出機能が欠けている。解せない。

海も重要な酸素補給源だが、原発汚染水を流して問題ないのか。珊瑚礁や海藻などのCO_2の炭素固定化や酸素供給も重要な課題だ。放射能・汚染水放出の是・非が語られないのも、解せない。

森林や海など自然への畏敬を忘れ、見落としている人間の仕業に「自然の摂理」が反撃しないと云う事があろうか。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2011.09

9月 4日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
　　持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
9月18日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
　　主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC™ C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

8月7日（第一日曜日）

8月に入り、夏休み最初の活動となったのが今回の小原本陣の森での定例活動でした。実家に帰省している人も多くForest Nova☆からの参加者は5人でした。1年生2人は、初めて小原本陣の森に入りました。嵐山とは違い、こちらは斜面が急できつかったです。また、この日は天気も良く、歩くだけで汗が出てきました。

今回は、緑のダムの方々と、小林山の森林整備をしました。Forest Nova☆は主に「保安林」という看板が倒れてしまっている場所や、急斜面で土留めを作りました。生木に枝を積んだだけの土留めが点在していたため、杭を打ち新しい土留めを4か所ほど作りました。生木に土留めを作ると、成長している木が枯れてしまうので、杭や切り株に作った方がいいということを学びました。

また、下草刈りを行いたいということだったのですが、普段Forest Nova☆は下草刈りをおこなっていないので本当に刈ってもいいものか悩んでしまいました。なぜ下草刈りを行うのか、なぜForest Nova☆は下草刈りを行わないのか両方の理由を理解したうえで作業したいと思いました。

お昼と活動後には、スイカをいただきました。拠点近くの川で冷やしておき、なたで切りわけて食べました。ひとり分が大きくて、とても甘くておいしかったので大満足です。先輩方が種飛ばしをして遊んでいたので、来年、もしかしたら拠点の近くにスイカができるかもしれません。

今回の活動で、1日の目標を立ててから活動を行った方が、やるべきことが明確になり、活気のある活動になること、なんのためにその作業を行うのか考えながら活動する必要があることを強く実感しました。反省点を生かし、これからの活動をさらにより良いものにしていきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

望月　亜佑子（Forest Nova☆）

[定例活動]若柳嵐山の森

8月21日（第三日曜日）

「木の持つ不思議な力、
緑のダム、森の積み木」

猛暑の八月、天気予報とおり本格的な雨。「活動モットー：雨でも休まず・・14年9カ月」目のこの日、県立・相模湖交流センターでの活動報告会・勉強会に切り替えた。

（ちなみに車で森に来る花畑班の吉池さんは一人、これを知らず雨に濡れながら、モクモクと森のガーデンの手入れをしていた）

・参加者：この雨の中、中学生、杉並区の教員11名、学生フォレストノバとそのＯＢ・計9名、生命の森宣言5名、一般参加21名、計46名。

・報告会では急遽会場を提供していただいた櫻田館長からお話をいただいたのち、[1]相模原市の応援を得て行った「義援金＋緑のダム・森の積み木」を震災被災地へ寄付した森の積み木プロジェクト（川田会員他２回４班１５人）から、幼稚園等１５ヶ所の避難所施設での状況報告。

子供たちの思いがけない集中力・創造力・譲り合う姿、先生方も子供たちの見せる姿に驚いた由。訪問地からの礼状や、子供たちの積木状況の映像や写真を交えて報告があった。

[2]杉並の学校教員・宮村会員指導による「森の積木でつくる：戦前の東京駅再現」の報告。

設計図もなく記録写真をたよりに三種類（長方形、四角形、台形）だけでつくる根気のいる組み立て作業に、真剣に取り組む中学生の姿が紹介された。

今後の展開としては、改築・東京駅の記念イベントに出品したいとの大胆な発言も。

[3]フォレストノバ（二藤OB、滝沢OB）より報告があり、二藤OB（三重県の林業会社）：会社では決まりきった日常業務だが、様々な人々が集まる「緑のダム」は、貴重な素晴らしい活動の場と改めて感じた。滝沢OB（三重県の水産会社）：会社では外部との交流が無いが、うなぎの掴みどりやマグロの食育体験を通じて自然の大切さを伝えて行きたい。
＊、卒業して遠くに行っても、こうして「緑のダムの森」に帰って来てくれ、今も自然を大切にする仕事に励む大学OBとの再会が嬉しいこの夏！

[4]その他、活動に関する様々な紹介、意見交換

午後は雨も止んでフォレストノバは、ＯＢと一緒に森へ。午前に引き続き、土留めと下草刈りを行いました。中学生もなみすけの森づくりプロジェクトで活動する区画でのナンバリングの続き。この時点で280本まで完了。残りわずかであることを考えると今重点的に行っている区画には300本程度ありそう、とのこと。

その他の参加者は運よくこの日、津久井青年会議所主催、北野大先生（明治大学教授）の「相模原市・緑区の魅力」と題する講演会に飛び入り参加した。収穫の多い、今年８月の「若柳嵐山の森：定例活動日」であった。

伊藤　小夜子
（本会、会員）

[報告１]
第9期（2011年）
収支予算・修正

8月号・月次ニュースレターで今期予算書は、東日本大震災の影響で暫定であり確定次第と報告した。決定したので以下、報告する。

（収入）自立する活動推進を目指す
（支出）極力、費用効率向上を図る
（収支）継続の為、絶対に赤字にしない

	前年実績	今期予算
収入の部	11340517	8644341
支出の部	7253176	4500000
収支差額	4087341	4144341

予算をつくるに当たって、以下の４項目を念頭に臨んだ。NPO活動は極力、小さい予算で可能な限り公益的効果のある成果を得る事が良い。事業予算高や留保金成長を目的としない。ここが企業との違いである。行政とは、最小費用で最大効果は同じでも、柔軟で迅速な思考・行動、一切の無駄を排除すると言うを徹底する。
学際との違いは、あくまでも現場で問題点・解決策・回答を得る。学識からの情報は、あくまで現場での問題点・解決策・回答の裏付け・検証の道具である。

＊今回の震災は、国の根幹を揺るがす事態となった。当会も全力で震災支援に取り組んだ。作り溜めていた「緑のダム・森の積み木」＋義援金募集を被災地に２回４班15人が届けた。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告２]湘南の森活動報告

７月２３日、恒例の夏休みイベントで男子高校生２名、女子中学生２名の合計４名のユースボランティアが参加しました。彼らの最初の仕事は、遊歩道中間地域のあじさいの花摘み。昨年思い切った剪定を施して、アジサイとは思えない２Ｍを越す丈を１Ｍほどに切り揃えた株には、今年もかなりの花が咲いたので、その花を摘む作業でした。７月中に花を切り取らないと、来年の花芽が出来ないのです。次の仕事は、男子は伐採した古損木の運搬・処理、女子は草刈でした。それぞれに目いっぱい働いていい汗をかいていました。

チェーンソー組は伐採してあった古損木を玉切りして、処理しました。腐朽の進んだ木にはキノコ類が沢山寄生、そして、シロアリやコガネムシ類 さらにはムカデまで、さまざまな虫類が出てきました。こうして森が再生してゆくのだよと高校生たちには生きたレクチャーが出来ました。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告３]
「森の積み木」による被災地支援に参加して

相模原市が以前から連携のある大船渡市に向けた被災地支援の一端を担って、緑のダムの活動の有力な産物のひとつである「森の積み木」を市内のほぼ全保育所に提供する支援活動が、6月と8月の2次にわたって行われ、私は後者に参加してきました。

どの保育園でも、保育士さんたちが一様に驚くほど、子供たちが生き生きと集中して積み木の造形に取り組む様子に立ち会うことが出来ました。肉親を失った子、家を流された子、避難・転居による転園など、個々の子どもの被災状況に違いがありますが、子どもたちは、それぞれに楽しんでもらえたと思います。ある保育園では、子供たちの何人かが、積み木でまず「お風呂」を作っていたことなども、印象的なことでした。そして、支援に出向いた者が、元気を分けてもらえるという実感を持てたことも、有り難いことでした。以下に気づいた点をいくつかメモしておきます。

支援プロジェクトの成功の第一は、「森の積み木」の持つすばらしいパワーによると言って過言でないだろうと思います。このことは、一カ所だけ追加された高齢者のデイケアセンターでも、十分に実証されていました。第2の理由として、川田浩さんをはじめとするリーダーたちの、周到な事前準備と、緻密な行動計画によって、実にスムーズに実行することが出来たことも、特筆されます。そして第3に、やはり直接現地に行って、「顔の見える支援」になったことも、大切なことであったろうと思います。

被災地大船渡市については、配布先の保育園への通り道での印象と、園長さん方との若干の会話からの断片的な情報に限られましたが、津波の押し寄せた地域と、それより高い土地とで、被災の明暗が分かれていること、海岸近くで被害の大きい地域でも、保育園は過去の災害経験から小高い位置に立てられていたため、市内で保育園児の死亡はゼロであったとのこと、さらに、５ヶ月経って、仮設住宅はかなり出来ているが、がれき撤去はまだ半ばという印象で、復興を感じさせるものはまだ見られなかった、などがとくに記憶に残ったところです。

大船渡に限っても、被災地支援はまだまだ継続される必要があるでしょう。「緑のダム北相模」がどのように取り組むことが出来るかについては、多くの検討課題が出てくるでしょうが、まずは地元の相模原市との連携の中で取り組まれた今回の支援活動が、市の側、NPO側それぞれに、どのように位置づけられ、評価されるかというとことから始まるのではないかと思います。ともあれ、「森を生かし」「森をつなぐ」活動として、「森の積み木」がさらにパワーを発揮することを期待しています。

石原　邦雄（成城大学、教授）

[報告４] フォレストノバ活動報告

4月に新1年生が加わり、今回は活動に参加したきっかけ、今後への思い等を教えてもらいました。

私がForest Nova☆に入ったきっかけは、麻布大学に入る前に、造園業で働いていたことに起因しています。元々、同大学に入った理由も、造園業での経験を生かし、成長していきたいと考えていたため、『森と人の共助共生社会の実現を目指す』という団体理念に感銘し、参加することを決めました。（淺野雅樹）

私がForest Nova☆に出会ったきっかけは、私は植物 (特に樹木) に携わりたいと思っていました。どうして植物に携わりたいと思っていたかというと、元々私は植物が好きだったのですが、決定的なのは“樹木医”という職業を知り、『これを将来の夢にしよう』と決めたことです。結局のところ、樹木医になるための大学には進学できませんでしたが、それでも植物に関わりたいという気持ちは変わりませんでした。そういうこともあり、Forest Nova☆は私にとって最も理想的なサークルだと思いました。（金井美穂）

私は温暖化などの環境問題に興味があって、大学では境関係の学科を志望しました。それでも具体的にどうしたら自分が問題に取り組んでいけるのか分からなかったときに、友人とForest Nova☆の説明会に参加しました。そこでForest Nova☆が目指すものは「森と人とが共存共生していける社会」だということを知り、これも一つの環境問題だと思い参加することを決めました。今後は活動に参加しながら森を知り、森のことを通して環境問題を考えられるようになりたいと思っています。（松村知香　以上麻布大学１年）

[コラム]「森の話」第4回 毒キノコの見分け方

暑い夏が過ぎるといよいよキノコのシーズン。春に収穫した原木栽培のシイタケも、秋になると再び顔を出してくれて嬉しい限りです。でも、やはり森の中を歩きまわり、ようやく野生のキノコを手にした時の喜びは格別なもの。キノコ狩りには単に食欲を満たすだけではない、それ以上の魅力があるようです。

ところで、キノコを探すのはよいとしても、どれが食べられるキノコでどれが毒キノコなのか。はたして簡単に見分ける方法はあるのでしょうか？はっきりいってありません。「食べてみる」というのがありますが、これではいくら命があっても足りないでしょう。縦に裂けるキノコ、地味な色のキノコは食べられる、ナスと一緒に煮ると毒が消えるなどという古い言い伝えがありますが、これらはすべて迷信です。

毒キノコは多くの科にわたって存在し、含まれる毒成分もキノコによって様々です。細胞を破壊し肝臓、腎臓に重大な損傷を与えるもの、消化器系統の中毒を発症させるもの、神経系に作用を及ぼし幻覚、興奮、意識混濁などを起こすものなどなど。なかには酒と一緒に食べると悪酔いを起こすキノコ、手足の先端に激痛が走り、その激痛がひと月余りも続くという風変わりなキノコもあるようです。毒キノコを一遍に判別できる方法のない理由がお解りいただけたでしょうか。

さて、それではどうしたら安全なキノコ狩りができるのか？近道はありません。ここは食べられるキノコ、美味しいキノコを根気よくひとつひとつ覚えていくしかないようです。死に至るような猛毒菌も併せて覚えておくと、事故の起きる確率が大幅に減少するのはいうまでもありません。そのための最上の方法は詳しい人に同行してもらうこと。図鑑だけでは解らないコツをいろいろと教えてもらえるでしょう。

ここまで来たところで「こんなに面倒くさいのなら、キノコ狩りなんてやーめた」という声が聞こえてきそうです。もっともですし、無難でもあります。しかし、世の中にはかように面倒な作業を乗り越え、命の危険を冒してまでもキノコ採りに熱中する人のいることも事実です。こうした人種は私も含め、食べる前から中毒にかかっているのかも知れません。キノコには人の理性を失わせる何か怪しい魅力が潜んでいるように思います。

左：フクロツルタケ（テングタケ科）
右：キイボカサタケ（イッポンシメジ科）
いずれも有害なキノコ

内野　郁夫（本会、理事）

[事務局からの
お知らせ、お願い]

JFIKと共催でフォレストキッズスクールを開催

森林保全活動を通して、子供たち向けの森林体験を続けています。10月8日(土)に全国森林インストラクター神奈川会と共催で2011フォレストキッズ・スクール『きこりになろう!』のテーマで開催します。

きこりになって秋の森でクイズや林業体験などで遊びませんか。きのこ汁もあります。詳細は本会ウェブページをご覧ください。

「UIA2011 東京大会　チェアシティ展」に参加

第24回世界建築会議=UIA2011東京大会には、100以上の国から、1万人近い建築家の参加を見込んでいます。このような大規模な国際会議は日本初で、注目が集まります。

本会、相模湖商工会と民間企業が協働して「森林再生事業促進実行委員会」を組織し、森林再生事業を創出するため4年間森づくり・モノづくりコンテストを実施してきました。4回目は今年開催される「UIA2011 東京大会　チェアシティ展」に入賞者の作品を若柳・嵐山の間伐材で製作し出展します。

公募コンペ作品展示部門として、森づくり・モノづくりコンテスト入賞作品を展示します。「日本地図のベンチに集い世界と語ろう」、巨大日本地図のベンチ展示ほか4点(一部他の会場に展示)など、協力作品を多数展示予定です。

さらに以下のイベントを開催します。

期間：9月23日～10月2日
会場：丸の内オアゾ１Ｆ○○広場
共催：
UIA東京チェアシティ展実行委員会＋森林再生事業促進実行委員会

9月23日（金）
オープニングセレモニー
川崎景太　花のメッセージ
10月1日（土）13:00～17:00
森づくり・モノづくりコンテスト入賞作品表彰式
★森林再生トークセッション（未定）
★著名建築家の講演
10月2日(日) 13:00～16:00
武田双雲「世界感謝の日」
小田原　健のトークショー
★協賛企業プログラム

ぜひ丸の内オアゾまでご来場下さい

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ、マルモ出版